

## 村半利活用検討会（令和6年度第2回）結果報告

日時 令和6年10月2日(水) 16時～17時15分

場所 村半 大会議室

出席者 検討会メンバー 7名、地域ラボ・高山 特任准教授 1名、支援員 1名、事務局(総合政策部総合政策課) 4名

### 内容

#### 1 協議事項

##### (1) 利用状況等について

- ・ 令和6年6月～9月の利用状況や占用利用実績等について説明
- ・ 今後の占用受付について

#### 2 報告事項

##### (1) 若者の地元就職や定住を促進する事業について

#### 3 その他

地域ラボ・高山 活動実績報告

岐阜大学地域ラボ・高山 特任准教授 中畑 久美子 氏

<意見交換、質疑> メ:構成メンバー、事:事務局

##### (1) 協議事項に対する意見等

メ:喫煙していたのは未成年か。

事:社会人。

メ:屋台蔵付近でたばこの吸い殻が落ちている心配していた。屋台蔵あたりから村半に入る若者をみかけたためスタッフに話をした。

メ:「男女が重なり合う様子が見えた」とあるが、文化会館でも同じようなことがある。スタッフも対応が大変では。

事:当事者たちにはそれをすることで回りの人がどう思うか、俯瞰して自分たちを見るように話したり、この場所がどういう場所であるか想像してもらいたいと伝えている。男女交際については素敵なことだと当事者には言った上で、自分たちだけの場所ではないということを学んでほしいと思いながら話している。人が集まるところなので様々な困りごとはあるが、それによって子どもたちや利用者に関わることができると考えて、悪いものとして処理をしないよう心がけている。関わることによって利用者にとってもプラスになると良いと思う。

メ:高校生団体が活動場所として村半よりも大政を選択する理由は。

事:大政の会議室にモニターがある部屋があり、そこが10人くらいの利用だと盛り上がる規模だと聞いている。モニターにパソコンの映像を映しながら向かい合って話し合いができるなど、規模や物品の配置などで使いやすいとのこと。

## (2) 報告事項に対する意見等

メ:こどもが6年程前に、専門学校を終えて高山に帰ってきたが、そのときは地元就職助成の対象外だった。

事:当時は国の補助に基づいて制度を作り、高校を卒業した者は対象外であったり、経歴などの条件があったが、昨年度から勤めはじめて1年以内という条件はあるものの、対象を幅広くして多くの方に助成できる仕組みにした。

## (3) 地域ラボ・高山 活動実績報告に対する意見等

メ:昔は大学の先生のお話を聞いても、現場のことはよくわからないと言われるなど何か違うなというイメージを持っていたが、地域ラボのメンバーを見ると即戦力であると感じる。企業など様々な仕事を経験された方々が、様々なことをやってくださるということで期待している。気軽に相談できるし、経験の中で良いアドバイスをいただけたと思う。

事:昨年度の利活用検討会で地域ラボから、大学は研究だけして帰ってしまうのではなく、地に足を付けた活動をしていきたいというお話を伺った。祭のパンフレット作成など大学生が地域の中で動いて、地域の方々と触れ合う機会を作っていただいたと思う。当初、市から地域ラボさんへは高校生と大学生とが関わる活動もしていただければとお願いしていたが、今年はそのような活動をたくさん実施していただきありがたいと思っている。

祭のパンフレット制作に関わられたことについてお話を伺いたい。

メ:大学生の発表の場に最初に参加させてもらったとき、高山祭の人手不足やお金をどうするのかと聞いた、困っていることを解決するための施策や方法を提案する発表が多かった。様々な企画の発表に対して地元からの厳しい意見もあったが、唯一残ったのが祭のパンフレット作成の企画。わたしが担当したグループが制作しており、わたしからは「困ったことは自分たちで解決できるから、大学生の君たちには高山祭を紹介してもらいたい」と話した。屋台を見て綺麗だなと思うだけで帰ってほしくないと思っていたため、完成されたものは屋台の魅力が書かれていて素晴らしいものになった。最初の会議のときにパンフレットの骨子を見て素晴らしいという話をしていたら、一緒に会議に参加されていた地域の方も是非作ろうと声もあげられて岐阜大学で作ってもらった。唯一残念なのが写真の画質。高山には図録などに使用できる屋台の写真がないが、ここは市で対応してもらえるとありがたい。屋台の写真も昭和50、60年代に撮られたものだと思う。大事なはこの次どうしていくかということだと思う。このパンフレットが配布されて反響も良かった。有料などにしてグレードアップしても良いと思う。

メ:今回のパンフレットでわたしも初めて知ることがあった。屋台の金具や仕組みなど、是非この秋の高山祭で見てみたいと思うものが記載されていた。

メ:この祭のパンフレットは誰を対象に作られたものか。

地:一番の対象は地域の子どもたちで、市内の小学4年生から中学3年生全員に配布した。また、祭当日も観光案内所で配布した。

メ:デジタル化はされるか？

地:岐阜大学の SPARC 事業のウェブサイトの中に PDF 化したものを添付している。

メ:ウェブサイトではなかなかたどり着きにくいように思った。

地:紙の価値を大事にしたいということで、デジタルは広げすぎないようにしようと整理したため、ウェブサイトには密かに載せている。

メ:もったいないと思った。

メ:こどもに配布していただきありがたい。大事なのはこどもたちが高山のことを誇りに思うこと。その材

料の一つとしてこれは役に立つと思う。心の中に高山がずっと残っていることがポイントだと思うため、このパンフレット制作事業はとても良いことだと思う。

事:屋台の写真についてはどうか。

メ:2種類の話だと思うが、一つはPDF化するとき解像度が低くなってしまうことと、もう一つは屋台のオフィシャルの写真が無いということ。祭のときは人が映ってしまう。昭和の終わりくらいに櫻山八幡宮の境内に屋台を曳いて旗もセットして撮影したものを現在も使い続けている。

事:セットした状態で人が入らないように撮影できる状況を作ることが難しいのか。

メ:この写真がどのような経緯で撮影したかはわからないが、幕や金具はどんどん朽ちていくので、写真に残していくことができないことが残念。写真はプロが撮影したものが望ましい。それぞれの地域には図録があり、金具や彫刻の写真があるため、それらが集まったものがあっても面白いと思う。今回のパンフレット制作でも提供依頼があつて屋台組から写真を提供した。

メ:屋台保存会でもそのような話は出ていて、アーカイブのようなそれぞれの屋台組で撮影した写真をまとめていくこともできないかといった相談もしている。

メ:高山市は文化財指定が早く、指定の際は写真撮影などを行ったと思うが、そこで止まってしまっている。わたしは高山の町並みの歴史も止まっていると思っている。そこで八幡祭屋台資料調査委員会を5人くらいで立ち上げた。各屋台組の古文書の写真を撮って保存をする活動を行っている。調査までは時間がかかるため保存することが中心だが、月2回全員ボランティアで活動している。せめて資料はわたしたちでがんばるので、写真は市でお願いします。

#### (4)その他

メ: 報告事項の中でスタッフと高校生との交流があったとあるが、大人の利用者さんから高校生と接するために来ているのに、なかなか関わるできないという意見を聞くことがある。そこは若者に対するセーフティネットとして安全安心に使ってもらおうという点で大事だとは思いますが、村半は一つのハブ、結節点でもあってほしいと思う。紹介できる場所は紹介してほしいと思うので、そういった関りがどうしたら生まれていくのかをスタッフの中で話し合ってもらえたらと思う。

事:そこは課題だと思っている。どう展開していくと良いか、展開も無理にしすぎないようにバランスをみながら相談させてもらいたいと思う。

以上